

## 第2回討委員会における主な意見等（概要）

ロードマップをつくる上で、何に力点を置いてエネルギー拡大を図っていくのか見えにくい

米倉山のP2Gは、県内だけの取り組みなのか、それとも全国に広めていくのか  
トータルでCO2フリー水素供給システムの確立は、ひと通りぐるっと回るシステムをつくることか、ある地域でシステムが確立されていることかを明確にする必要がある

水素エネルギーの利用拡大、CO2フリー水素サプライチェーンの構築、水素・燃料電池関連産業の振興をどう結び付けるのか

社会受容性向上の戦略が少ない

国内外から研究拠点に視察にくる方が、全体像が分かるセンターのような総合的な場をつくるのが大事である

CO2フリー水素サプライチェーンで、2030年以降に本格的な導入とあるが、どういう姿になっているのか、明確に見えづらい  
何をもって2030年のゴールとするのか、一定の目標感があった方が、より分かりやすいのではないかと

FCVとFCバスの補助金の表について、地方自治体等の補助もあるところがあるので、表現を考えていただきたい

山梨らしさを出すのは、CO2フリー水素のサプライチェーンの構築だと思うので、オンサイトによるメリットが出るという夢のある話しを書けばよいのではないかと

全国の自治体は、非常用電源の確保に関心をもって熱心に考えているので、市町村を巻き込んで、たとえば、CO2フリー水素を非常用電源としてプールするような仕掛けを取り入れるなど、研究だけではなく、どのように活用しているのか、山梨に行けば分かるというような形をつくるのが重要である

水素をやる意義として、BCPの観点があるとか、CO2をなくす観点があるとか、そういったものが冒頭にあれば、山梨県の意志が強く出てくるのではないかと

EVシフトと言われているが、脱ガソリン、脱ディーゼルの流れの中で、EVもFCVも選択肢としてあるということ、産業労働部の工程表に書いてほしい

EVシフトではなく、ゼロエミッション・ビークル・シフトだと思う

EVの大きな流れの中で、水素はいかに意義があるのか、ということ、世の中に示していかなければならない状況を、頭に入れる必要がある

水素エネルギーの利用拡大の部分に、何らかの形で水素供給の視点がほしいと思う

エネルギービジョンの県民生活のところ「環境に優しいライフスタイルの定着」とあるが、この施策で、県民にどういった効果があるのかといった説明があるべきである  
山梨の将来にどのように繋がってくるのか分かりやすくというのは重要な指摘であり、エネルギービジョンの概要がどういう意味を持っているのかということを書くだけで、水素にチャレンジすることが、この地域にどういう影響が出てくるのかというのが、かなり伝わってくるのではないかと

2030年までの13年間を、山梨県が真っ先にリードして、日本全体に広げていくのが意義深いところで、それには、経営者を含めて県民が理解を持って進めていくのが一番大事である

エネファームの目標34,000台は、エネルギービジョンにも書かれた数値なので、変えるということは基本的にないと思うが、新築住宅だけではかなり厳しいことから、既築住宅への設置を進めることを、取り組みの方向に書いていただきたい

主として東京でエネファームの普及に取り組む、国、ハウスメーカー、ガス事業者、機器メーカーなどによる「エネファームパートナーズ」という任意団体があるが、その山梨県版のようなものをつくることはどうか

エネファームは導入コストが高いことから、今までなかったものを新設するわけではないので、補助金の継続について書き込んでいただきたい

業務・産業用SOFCも、補助金を入れてもかなり高額で、民間事業者ではなかなか進まない、当面は県有施設から導入するというのは当然のことだと思う